

第899号

令和6年7月17日

佐渡市立金井小学校

佐渡ことば・こころの教室

教室だより

〒952-1209

佐渡市千種丙178番地1

TEL:0259(63)4156(直)

4115(代)

FAX:0259(63)4117

E-mail:skotoba@sado.ed.jp

HP:<http://kanai-es.sado.ed.jp>

(教室だよりのバックナンバーも掲載中)

大切な場所になるために

佐渡市立真野中学校

校長 石塚 間継

今年度から真野中学校に通級指導教室が新設されましたことに感謝申し上げます。

学校は全ての子どもたちが笑顔で過ごし、輝ける大切な場所であればなりません。そのためには、子どもたちが「やってみよう」と思える雰囲気づくりが重要であると考えています。私が大切にしていることは、認める声掛けです。「やったね」、「いいね」、「そのままでいいと思うよ」、「がんばっていたこと知っているよ」等の認める声掛けで、子どもたちの表情や言動が変わります。一人一人の状況を十分に把握しながら、適切なときに適切な認める声掛けをしていきたいものです。

年度当初に担当教諭が、『通ってよかった』と充実感のもてる通級指導教室の運営をしたい」という思いを私に話してくれました。真野中学校の通級指導教室が、子どもたちにとって自分を変えてくれた大切な場所となるよう、担当職員、関係機関とともに、教育環境をさらに充実させていきたいと思っています。



通級 OJT 研修 今年も始まりました！

5月から、真野小発達通級でOJT研修が始まりました。

OJT研修とは、日常の教育活動の中で指導法や対応法を学ぶ研修です。県内で「通級指導」のニーズが高まる小・中学校の先生に通級指導のスキルを身に付けてもらうことを目的として、令和3年度に始まりました。佐渡市内では、これまでに5人の先生方が研修を受け、そのうち3名の方が現在通級の担当をしています。

今年度は、毎週水曜日に両津小学校から菊池直美先生が研修に来てくださっています。人とかかわりや学習への向き合い方などに課題を抱えている子どもに、どう対応したらよりよい支援になるのかを私と一緒に考えてくれています。「あいうえおの歌を使ってみてはどうでしょう」と提案してくれるなど、自分とは違う視点からのアプローチをしてくださり、色々な人が指導にかかわることの良さを実感しています。また、お楽しみタイムでは、積極的に通級児童と遊んでくれ、子どもたちとの触れ合いも大切にしてくれています。

初めての人や環境が苦手という子どもも多いですが、新しい先生と上手にかかわることができたという成功体験を積む場にもなっています。1年間、よろしくお願いいたします。

(香遠直子)



心掛けていること

日頃の運動不足解消のために、時々ラジオ体操をしています。ある日の指導者が「笑顔で後ろ反り」と言うのを聞いて、笑顔で体を反らすと、何だかいつもより少し楽に体が動くような気がしました。体を曲げるときは息をはきながら行うのが効果的だと言われますが、「笑顔で」と聞いて、呼吸も体も良い状態になったのでしょうか。

教室では、個々の学習課題をイメージしやすい言葉を使うよう心掛けています。車が好きな子どもが文字を書くときは、行を意識できるよう「歩道へはみ出さないようにね」と声掛けします。お手伝いの好きな子どもが漢字を書くときは、部分ごとのバランスを意識できるよう「お弁当のおかずと同じでバランスが大切だよ」と声掛けします。鉛筆を持つ手首がぎこちない子どもには、鉛筆の先をトキのくちばし



と想着「えさを探してね、上にも下にも動かそう」と声掛けして手首を動かし、ほぐれてから書かせています。笑顔で楽しく学習できるよう、子どもたちの話を聞きながら進めていきたいと思っています。(金子佐代子)

第1回運営会議が開かれました

6月10日(月)に第1回運営会議が開かれ、昨年度の報告と今年度の教室運営について審議が行われました。ご意見を今後の教室運営に活かしていきます。

夏季言語検査・情報交換会を行います

7月後半から、保育園・幼稚園・こども園の年長児を対象とした夏季言語検査と、通級児童生徒の在籍校担任との情報交換会を行います。よろしくお願いいたします。



「繋がる」

親の会会長 飯田 里美



会員の皆様には、親の会の活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。今年度から親の会会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

次女がことば・こころの教室に入級したのは、20年前。「学級、社会とどう繋がるか」ということをたくさん考えたことを覚えています。そのときに、先生方や保護者の方々と出会い、支えになりました。学習・生活・就労等、子どもによって困り感も様々です。だからこそ、繋がり方も一つではないと感じます。子ども中心にどのように繋がり支えられるかを、子どもや親に関わる方々と共に考えていく必要があると考えます。子どもも親も自分らしく元気に過ごせるために、先生方や会員の皆様と一緒に活動できればと思います。

6/22(土) 第1回学習会報告

河原田諏訪町にあるHOSTEL Perchさんをお借りし、会場1階では、吃音をもつ若者が店員を務める「注文に時間がかかるカフェ新潟」、2階では、映画「注文に時間がかかるカフェー僕たちの挑戦」の上映および小学生スタッフによる「ミニカフェ」を開催しました。

「注文に時間がかかるカフェ」発起人の奥村安莉沙様には、カフェスタッフの事前打合せから携わっていただきました。また、2階の上映会には、多くの方にご参加いただきました。吃音について理解を深めるよい機会になりました。

【感想】

- ・吃音は治してあげたいという考えで接するのではなく、相手を受け入れるという気持ちで接することが大事だと考えが変わりました。
- ・孫が知らない方々と接客している姿にとっても感動しました。自分の言葉に自信がなくなることなく、生活していけたら嬉しいです。

